



平成27年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年2月4日

上場取引所 東

上場会社名 シミックホールディングス株式会社
コード番号 2309 URL <http://www.cmic-holdings.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役CEO (氏名) 中村 和男

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員CFO (氏名) 望月 渉

TEL 03-5745-7070

四半期報告書提出予定日 平成27年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年9月期第1四半期の連結業績(平成26年10月1日～平成26年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期純利益 | |
|-------------|--------|------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 27年9月期第1四半期 | 13,063 | △0.3 | △16 | — | △34 | — | 231 | △37.7 |
| 26年9月期第1四半期 | 13,098 | 1.9 | 1,064 | △23.5 | 1,117 | △22.1 | 371 | △45.0 |

(注) 包括利益 27年9月期第1四半期 669百万円 (31.4%) 26年9月期第1四半期 509百万円 (△31.1%)

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 |
|-------------|-------------|--------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 27年9月期第1四半期 | 12.91 | — |
| 26年9月期第1四半期 | 20.62 | — |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|-------------|--------|--------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 27年9月期第1四半期 | 49,355 | 20,553 | 41.1 |
| 26年9月期 | 49,237 | 20,309 | 41.1 |

(参考) 自己資本 27年9月期第1四半期 20,279百万円 26年9月期 20,224百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|------------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 26年9月期 | — | 17.50 | — | 17.50 | 35.00 |
| 27年9月期 | — | — | — | — | — |
| 27年9月期(予想) | — | 17.50 | — | 17.50 | 35.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年9月期の連結業績予想(平成26年10月1日～平成27年9月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり当期純利益 |
|-----------|--------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 第2四半期(累計) | 27,000 | 5.9 | 1,000 | △42.6 | 800 | △54.1 | 600 | △19.5 | 33.34 |
| 通期 | 56,300 | 6.6 | 2,500 | △9.6 | 2,200 | △16.8 | 900 | △23.4 | 50.01 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注)「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の3に該当するものであります。詳細は、四半期決算短信 添付資料6ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

| | | | | |
|---------------------|----------|--------------|----------|--------------|
| ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 27年9月期1Q | 18,221,860 株 | 26年9月期 | 18,221,860 株 |
| ② 期末自己株式数 | 27年9月期1Q | 412,300 株 | 26年9月期 | 224,140 株 |
| ③ 期中平均株式数(四半期累計) | 27年9月期1Q | 17,923,040 株 | 26年9月期1Q | 17,997,993 株 |

(注)自己株式数については、株式給付信託(J-ESOP)が所有する当社株式(190,000株)を含めております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。
業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、四半期決算短信 添付資料5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------|----|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 5 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 5 |
| 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 | 6 |
| (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 | 6 |
| (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 | 6 |
| (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 | 6 |
| 3. 四半期連結財務諸表 | 7 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 7 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 9 |
| 四半期連結損益計算書 | |
| 第1四半期連結累計期間 | 9 |
| 四半期連結包括利益計算書 | |
| 第1四半期連結累計期間 | 10 |
| (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 11 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 11 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 11 |
| (セグメント情報等) | 12 |
| 4. 補足情報 | 13 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

[当連結会計年度の概況]

当社グループは、製薬企業の付加価値向上に貢献する当社独自の事業モデルであるPVC (Pharmaceutical Value Creator) を展開し、CRO (医薬品開発支援) 事業、CMO (医薬品製造支援) 事業、CSO (医薬品営業支援) 事業、ヘルスケア事業、IPD (知的財産開発) 事業において、製薬企業の開発、製造、営業・マーケティングのバリューチェーンを広範に支援しております。

医薬品業界におきましては、政府の成長戦略において医療関連産業活性化の方針が示され、産官学連携を通じた迅速な新薬創出を促進するとともに、ジェネリック医薬品の普及促進のため数量シェアを平成30年3月末までに60%以上に高める目標を設定するなど、社会保障費を抑制するための取組みが進められています。さらに平成26年4月には、薬価収載後一定期間を経過してもジェネリック医薬品への置換えが60%未満の長期収載品について、薬価を特例的に引き下げる薬価改定が実施されました。先発医薬品を扱う製薬企業においては、主力製品の特許切れに加えて、収益基盤であった長期収載品の薬価引き下げによる収益構造の変化に直面し、医薬品の開発から営業・マーケティングに至る全てのバリューチェーンにおいて組織体制の最適化を図り、経営効率を一層高める取組みが進みつつあります。

当社グループが属する業界におきましては、このような医薬品業界の変化に伴うアウトソーシングニーズを受け、支援業務の多様化や顧客との連携強化を図っています。また、企業合併や異業種からの新規参入等の業界再編も進捗中、市場規模は拡大傾向にあります。

[売上高及び営業利益]

当第1四半期連結累計期間においては、来期 (平成28年9月期) の業績V字回復を目指し、赤字事業の解消及びコスト構造の改革を推進するProject Phoenixを立ち上げ、CMO、SMO (治験実施施設支援)、IPDの3事業の業績改善に向けてグループ一丸となって取組みを進めております。また、他の事業においても事業領域の基盤を強化するとともに、サービスの一層の充実を図ることにより、事業の収益性と生産性の向上及び事業間シナジーの追求に取り組んでおります。当第1四半期連結累計期間の売上高は13,063百万円 (前年同期比0.3%減)、営業損失は16百万円となり、営業損失を計上しておりますが、概ね計画通りの進捗となっております。

セグメント別の業績の状況は以下のとおりです。なお、平成26年10月の組織変更に伴い、製薬企業などから医薬品などの分析化学サービスに係る業務を受託する株式会社応用医学研究所は、その所属する報告セグメントをCMO事業からCRO事業に変更しております。セグメント別の業績の前年同期比増減額及び率につきましては、当該変更後の区分に基づいて比較しております。

<CRO事業>

(単位：百万円)

| | 前第1四半期 連結累計期間 | 当第1四半期 連結累計期間 | 増減額 (増減率%) |
|----------------|------------------|------------------|--------------|
| 売上高 | 6,127 | 6,466 | +338 (+5.5%) |
| 営業利益又は営業損失 (△) | 1,071 | 1,136 | +64 (+6.0%) |

当事業においては、主に製薬企業の医薬品開発支援に係る業務を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、多様化する顧客ニーズに対応するため、専門性と効率性を一層強化し、グローバル開発案件や治験国内管理人業務等の支援業務を拡大しております。また、医薬品承認申請支援業務において、CDISCが規定する臨床試験データの国際標準を用いた支援業務体制を強化しました。

非臨床業務においては、平成26年11月に持分法適用関連会社である株式会社JCLバイオアッセイを完全子会社化するための株式交換契約を同社と締結しました。分析化学サービスを行う株式会社応用医学研究所や非臨床安全性試験と薬効薬理試験等を行う株式会社シミックバイオリサーチセンターと連携を強化し、新薬及びジェネリック医薬品開発に伴う事業機会の拡大と米国における事業拡充等を促進してまいります。

売上高及び営業利益につきましては、モニタリング業務及びデータマネジメント業務において新規受注及び既存案件が堅調に進捗したこと等により、前年同期を上回りました。

「CDISC (Clinical Data Interchange Standards Consortium)」：非営利の臨床データ標準化団体であり、日本においても平成28年からCDISCが規定する国際標準による申請が義務化される。

<CMO事業>

(単位：百万円)

| | 前第1四半期 連結累計期間 | 当第1四半期 連結累計期間 | 増減額 (増減率%) |
|----------------|------------------|------------------|--------------|
| 売上高 | 3,216 | 3,396 | +180 (+5.6%) |
| 営業利益又は営業損失 (△) | 309 | △110 | △420 (-) |

当事業においては、主に製薬企業の医薬品製造支援に係る業務を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、業績の早期回復のための構造改革に取り組んでおります。シミックCMO株式会社の静岡工場では、当事業年度に大幅な受託生産量の減少が見込まれることから、価格競争力のあるコスト構造への転換と新規受託の獲得に向けた営業活動の強化を推進しております。一方、富山工場においては新製造棟が本格的に移動し、新規案件の受託生産を順調に実施しております。また、持分法適用関連会社であるシミックJSRバイオロジクス株式会社においては、次世代抗体医薬品の設計と製造プロセスの開発を目指し、静岡事業所内に実験棟の建設が着工しております。平成26年10月には、アイルランドのヘルスケアサービス企業であるUDG Healthcare plc とパッケージングアウトソーシングにおける事業提携を行い、外資系医薬品製造受託機関との連携による顧客基盤の拡大と技術力の強化を図っております。

売上高につきましては、シミックCMO足利株式会社の業績が加わったこと等により前年同期を上回りましたが、静岡工場における受託生産量の減少等により、営業損失を計上しております。

<CSO事業>

(単位：百万円)

| | 前第1四半期 連結累計期間 | 当第1四半期 連結累計期間 | 増減額 (増減率%) |
|----------------|------------------|------------------|---------------|
| 売上高 | 1,425 | 1,925 | +499 (+35.1%) |
| 営業利益又は営業損失 (△) | 87 | 28 | △58 (△67.7%) |

当事業においては、主に製薬企業の営業・マーケティング支援及び医療、製薬業界向けBPO (Business Process Outsourcing) ・人材サービスに係る業務を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、平成26年10月にヨーロッパ最大のCSOを保有するUDG Healthcare plcとの合弁会社シミック・アッシュフィールド株式会社が営業を開始し、MR (医薬情報担当者) 派遣業務の受注力強化及びサービスモデル拡充に取り組んでおります。製薬企業において営業予算削減とリソース配分の見直しが進められる中、MR派遣業務においては既存大型案件の着実な遂行と新規案件の獲得を図りました。

売上高につきましては、シミック・アッシュフィールド株式会社のMR派遣業務及び株式会社シミックBSのBPOサービス業務において新規受注及び既存案件が好調に進捗したこと等により、前年同期を大幅に上回りました。営業利益につきましては、合弁化に伴う一時費用の発生等により、前年同期を下回りました。

<ヘルスケア事業>

(単位：百万円)

| | 前第1四半期 連結累計期間 | 当第1四半期 連結累計期間 | 増減額 (増減率%) |
|----------------|------------------|------------------|-----------------|
| 売上高 | 2,412 | 1,357 | △1,054 (△43.7%) |
| 営業利益又は営業損失 (△) | 169 | △301 | △470 (-) |

当事業においては、SMO業務、ヘルスケア情報サービスなど、主に医療機関や患者、一般消費者の医療や健康維持・増進のための支援業務を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、SMO業務における新規受注の獲得に邁進しており、受注は堅調に増加しつつあります。また、品質管理及びコンプライアンスに関する教育の強化を継続的に推進しております。

売上高及び営業利益につきましては、前年度の受注低迷の影響により、売上高が前年同期を大幅に下回り、営業損失を計上しております。業績の早期回復を図るため、営業活動の強化、医療機関ネットワーク拡大の推進とともに、コスト削減に向けた取り組みを進めています。

<IPD事業>

(単位：百万円)

| | 前第1四半期 連結累計期間 | 当第1四半期 連結累計期間 | 増減額 (増減率%) |
|----------------|------------------|------------------|--------------|
| 売上高 | 100 | 80 | △19 (△19.3%) |
| 営業利益又は営業損失 (△) | △142 | △189 | △46 (-) |

当事業においては、診断薬や希少疾病用医薬品（オーファンドラッグ）等の開発及び販売に係る業務を行っております。

診断薬事業については、当社が腎疾患の診断を目的として開発した体外診断用医薬品「ヒトL型脂肪酸結合蛋白キット」（販売名：レナプロ®L-FABPテスト）の高感度測定が可能な改良型（販売名：レナプロ®L-FABPテストTMB）の販路拡大と学術及びプロモーションの強化に努めるとともに、簡易検査（Dip-test）キットの開発を行っております。

希少疾病用医薬品については、自社で販売している尿素サイクル異常症用治療薬「ブフェニール®（一般名：フェニル酪酸ナトリウム）」及び急性ポルフィリン症治療薬「ノーモサング®（一般名：ヘミン）」について、疾病認知度向上の施策を継続しています。また、赤字解消に向けて、製薬企業との共同販促に関する業務提携を実施するなど売上規模の拡大を図るとともに、販売経費の削減に取り組んでおります。

当事業は診断薬等にかかる研究開発費の計上及び株式会社オーファンパシフィックにおける販売にかかる費用等の計上により、営業損失が発生しております。

[経常利益]

当第1四半期連結累計期間の経常損失は34百万円となりました。

主な減少要因は、営業損失を計上したことによるものであります。営業外収益として為替差益等54百万円、営業外費用として支払利息及び持分法による投資損失等73百万円を計上しております。

[四半期純利益]

当第1四半期連結累計期間の四半期純利益は前年同期比139百万円減（37.7%減）の231百万円となりました。

主な減少要因は、経常損失を計上したことによるものであります。特別利益として株式会社シミックエムピーエスエス（現シミック・アッシュフィールド株式会社）の株式売却益627百万円、法人税等合計386百万円及び少数株主損失27百万円を計上しております。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末比で118百万円増加し、49,355百万円となりました。これは、主に有形固定資産及び投資有価証券の増加と現金及び預金の減少によるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末比で124百万円減少し、28,802百万円となりました。これは、主に賞与引当金及び未払法人税等の減少と、コマーシャル・ペーパーの増加によるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末比で243百万円増加し、20,553百万円となりました。これは、主にその他有価証券評価差額金及び為替換算調整勘定の増加と配当金の支払及び自己株式の取得による減少によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年11月5日に平成26年9月期決算短信にて公表いたしました業績予想から変更はございません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

（退職給付に関する会計基準等の適用）

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。）を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法を割引率決定の基礎となる債券の期間について従業員の平均残存勤務期間に近似した年数を基礎に決定する方法から退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従っております。

この結果、当第1四半期連結会計期間の期首の退職給付に係る負債及び利益剰余金、ならびに、当第1四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響はありません。

（従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱いの適用）

当社は、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第30号 平成25年12月25日）を当第1四半期連結会計期間より適用しております。

なお、当実務対応報告適用初年度の期首より前に締結された信託契約に係る会計処理につきましては従来採用していた方法を継続するため、当実務対応報告の適用による四半期連結財務諸表への影響はありません。

追加情報

（連結納税制度の適用）

当第1四半期連結会計期間より、当社及び一部の連結子会社は、当社を連結納税親法人として、連結納税制度を適用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成26年9月30日) | 当第1四半期連結会計期間 (平成26年12月31日) |
|-------------|-------------------------|-------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 5,922 | 5,107 |
| 受取手形及び売掛金 | 9,154 | 9,095 |
| 商品及び製品 | 119 | 119 |
| 仕掛品 | 3,226 | 3,492 |
| 原材料及び貯蔵品 | 1,258 | 1,444 |
| その他 | 3,947 | 4,031 |
| 貸倒引当金 | △10 | △9 |
| 流動資産合計 | 23,619 | 23,282 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物(純額) | 7,981 | 7,894 |
| 土地 | 5,934 | 5,946 |
| その他(純額) | 4,903 | 5,197 |
| 有形固定資産合計 | 18,819 | 19,037 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 820 | 774 |
| その他 | 1,650 | 1,554 |
| 無形固定資産合計 | 2,470 | 2,329 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 922 | 1,470 |
| 敷金及び保証金 | 1,517 | 1,524 |
| その他 | 1,917 | 1,743 |
| 貸倒引当金 | △30 | △32 |
| 投資その他の資産合計 | 4,327 | 4,707 |
| 固定資産合計 | 25,617 | 26,073 |
| 資産合計 | 49,237 | 49,355 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成26年9月30日) | 当第1四半期連結会計期間 (平成26年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 589 | 791 |
| 短期借入金 | 3,801 | 2,519 |
| コマーシャル・ペーパー | 2,000 | 4,000 |
| 未払法人税等 | 1,207 | 22 |
| 賞与引当金 | 1,989 | 591 |
| 役員賞与引当金 | 38 | - |
| 受注損失引当金 | 307 | 427 |
| その他 | 6,473 | 7,025 |
| 流動負債合計 | 16,406 | 15,378 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 7,608 | 8,306 |
| 退職給付に係る負債 | 4,082 | 4,246 |
| その他 | 828 | 870 |
| 固定負債合計 | 12,520 | 13,424 |
| 負債合計 | 28,927 | 28,802 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 3,087 | 3,087 |
| 資本剰余金 | 6,292 | 6,292 |
| 利益剰余金 | 11,098 | 11,011 |
| 自己株式 | △258 | △573 |
| 株主資本合計 | 20,220 | 19,817 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | △0 | 348 |
| 為替換算調整勘定 | 39 | 141 |
| 退職給付に係る調整累計額 | △34 | △28 |
| その他の包括利益累計額合計 | 4 | 461 |
| 少数株主持分 | 85 | 273 |
| 純資産合計 | 20,309 | 20,553 |
| 負債純資産合計 | 49,237 | 49,355 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成25年12月31日) | 当第1四半期連結累計期間 (自平成26年10月1日 至平成26年12月31日) |
|-------------------|---|---|
| 売上高 | 13,098 | 13,063 |
| 売上原価 | 10,080 | 10,740 |
| 売上総利益 | 3,018 | 2,322 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,954 | 2,338 |
| 営業利益又は営業損失(△) | 1,064 | △16 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 0 | 1 |
| 受取賃貸料 | 3 | 5 |
| 為替差益 | 31 | 19 |
| 持分法による投資利益 | 34 | - |
| 資材売却収入 | - | 12 |
| その他 | 30 | 15 |
| 営業外収益合計 | 100 | 54 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 30 | 33 |
| 持分法による投資損失 | - | 16 |
| その他 | 17 | 23 |
| 営業外費用合計 | 47 | 73 |
| 経常利益又は経常損失(△) | 1,117 | △34 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 0 | - |
| 関係会社株式売却益 | - | 627 |
| 特別利益合計 | 0 | 627 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | 38 | 2 |
| 投資有価証券評価損 | 129 | - |
| 特別損失合計 | 168 | 2 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 948 | 590 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 183 | 72 |
| 法人税等調整額 | 390 | 313 |
| 法人税等合計 | 574 | 386 |
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 374 | 203 |
| 少数株主利益又は少数株主損失(△) | 3 | △27 |
| 四半期純利益 | 371 | 231 |

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日) |
|-----------------|---|---|
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 374 | 203 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 58 | 348 |
| 為替換算調整勘定 | 75 | 111 |
| 退職給付に係る調整額 | - | 6 |
| その他の包括利益合計 | 134 | 466 |
| 四半期包括利益 | 509 | 669 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 501 | 688 |
| 少数株主に係る四半期包括利益 | 7 | △18 |

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成25年10月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | | | | 調整額 (注) 1 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2 |
|-------------------------|---------|-------|-------|-------------|-------|--------|--------------|--------------------------------|
| | CRO事業 | CMO事業 | CSO事業 | ヘルスケア 事業 | IPD事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 6,113 | 3,214 | 1,277 | 2,400 | 93 | 13,098 | — | 13,098 |
| セグメント間の内部 売上高又は振替高 | 14 | 2 | 148 | 11 | 6 | 183 | △183 | — |
| 計 | 6,127 | 3,216 | 1,425 | 2,412 | 100 | 13,282 | △183 | 13,098 |
| セグメント利益又は セグメント損失(△) | 1,071 | 309 | 87 | 169 | △142 | 1,495 | △431 | 1,064 |

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△431百万円には、セグメント間取引消去等0百万円、各報告セグメントへ配分していない全社費用△431百万円が含まれております。全社費用の主なものは、当社(持株会社)に係る費用であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 平成26年10月の組織変更に伴い、株式会社応用医学研究所は、その所属する報告セグメントをCMO事業からCRO事業に変更しており、前第1四半期連結累計期間(自平成25年10月1日至平成25年12月31日)のセグメント情報は、当該変更後の区分方法により作成しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成26年10月1日至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | | | | 調整額 (注) 1 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2 |
|-------------------------|---------|-------|-------|-------------|-------|--------|--------------|--------------------------------|
| | CRO事業 | CMO事業 | CSO事業 | ヘルスケア 事業 | IPD事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 6,436 | 3,387 | 1,810 | 1,351 | 77 | 13,063 | — | 13,063 |
| セグメント間の内部 売上高又は振替高 | 29 | 9 | 115 | 6 | 3 | 163 | △163 | — |
| 計 | 6,466 | 3,396 | 1,925 | 1,357 | 80 | 13,227 | △163 | 13,063 |
| セグメント利益又は セグメント損失(△) | 1,136 | △110 | 28 | △301 | △189 | 563 | △579 | △16 |

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△579百万円は、各報告セグメントへ配分していない全社費用△579百万円であります。全社費用の主なものは、当社(持株会社)に係る費用であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

3. 平成26年10月の組織変更に伴い、株式会社応用医学研究所は、その所属する報告セグメントをCMO事業からCRO事業に変更しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

4. 補足情報

受注の状況

受注実績

(単位：百万円)

| 報告セグメントの名称 | 前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日) | | 当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日) | | 前連結会計年度 (自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日) | |
|------------|---|--------|---|--------|---|--------|
| | 受注高 | 受注残高 | 受注高 | 受注残高 | 受注高 | 受注残高 |
| CRO事業 | 6,654 | 36,293 | 7,943 | 39,727 | 27,429 | 38,221 |
| CMO事業 | 3,133 | 1,245 | 2,814 | 3,089 | 15,940 | 3,662 |
| CSO事業 | 2,265 | 4,423 | 1,964 | 5,651 | 8,725 | 5,498 |
| ヘルスケア事業 | 497 | 10,155 | 1,559 | 8,492 | 3,360 | 8,284 |
| IPD事業 | 94 | 1 | 65 | 133 | 618 | 144 |
| 合計 | 12,645 | 52,118 | 14,347 | 57,094 | 56,074 | 55,810 |

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 金額は販売価格によっており、セグメント間の取引については相殺消去しております。

3. CMO事業の受注残高は確定注文を受けているもののみ計上しております。顧客からは、年間ベースの発注計画等の提示を受けていますが、確定注文とは異なりますので受注残高には含めておりません。

4. 平成26年10月の組織変更に伴い、株式会社応用医学研究所は、その所属する報告セグメントをCMO事業からCRO事業に変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度の受注高並びに受注残高は、当該変更後の区分方法により作成しております。